

冠省

大変ごぶさたをしております。「造反教官」と「全共闘」という立場で「連帯」して、四半世紀が経ちました。“あの時”以来、私たち「全共闘」は散りちりになりましたが、いま様々な大学・グループを越えたネットワーク「プロジェクト猪」をつくり、“ゆるやかな再会”を果たすべく同封のアンケートを実施中です。どうやら私たちの趣旨に共感をいただけたらしく、友人・知人の紹介の輪が日を追う毎に広がり、現在までに約4800の方々に発送、回答総数は530、カンパも70万円を越えました。(最終的には600近くになると思われます)ほとんどの回答はそれぞれの設問に「想いのたけ」をビッシリ書き込んだ内容あるものばかりです。

朝日新聞特集(1月18日)、NHK「別冊リレードキュメント」(3月12日(土)午後11時～)をはじめ、各種メディアにも好意的に取り上げられております。今後も、フジTV「ノンフィックス」(午前1時～2時、4月下旬)、月刊「マルコポーロ」などで大きく紹介されますので、ご覧ください。

本アンケート結果は肉声のまま「全共闘白書」としてまとめ5月～6月に刊行の予定です(平均回答字数は約2000字、B5版で600ページを超える大部になりそうです)。その際、往時「大学」側から「学生」側に身を置き換えられた「造反教官」の方々と「大学当局」側に身を置かれた方々にも、忌憚ないご意見をいただいて収録、本書により歴史的かつ論争的な価値を与えたいと考えております。つきましては、以下の項目につき、お考えをお寄せいただきたく、ご協力をお願いする次第です。

- ①この時期に「全共闘白書」が刊行されることをどう評価されますか。
- ②全共闘運動がもたらした歴史的意義。(マイナス面があれば、それについてもご自由にお触れください)
- ③全共闘運動は“その後のあなた”にどのような影響を与えましたか。(マイナス面があれば、それについてもご自由にお触れください)
- ④21世紀にむけて「全共闘(体験)世代」が果たしうる役割と可能性について(マイナス面があれば、それについてもご自由にお触れください)
- ⑤上記以外で全共闘世代と全共闘運動について、ぜひ述べておきたいことがあれば、ご自由にお触れください。

なお、この「文書」は、次の皆様に発送しました。

●「造反教官」の方々

花崎卓平氏、折原浩氏、最首悟氏、塩川喜徳氏、信賢辰喜氏、小林忠太郎氏、高木仁三郎氏、湯浅欽史氏、池田浩士氏、安藤彦太郎氏、新島淳良氏

●当時「大学当局」側に身を置かれた方々

村井資長氏(当時早稲田大学総長、インタビューを受けていただきました)

加藤一郎氏(元東大総長代行、回答のご返事をいただきました)

宮崎繁樹氏(現総長、当時明治大学学生部長、さっそくご回答をいただきました)

古田無氏(当時法政大学学生課職員)

青木氏(当時お茶の水大学教授)ほか

まことに勝手ながら、日程と紙幅の関係上、5月10日までに、全体で400字10枚以内でお答えいただければ幸いです。同封の封書にてご回答ください。また上記元「造反教官」は、事務局で連絡先が確認できた方に限られております。

本状は小林忠太郎氏の要請により送らせていただきました。

参考資料として①呼掛文とアンケート用紙②「新聞記事」③回答のサンプル④中間集計分析を同封します。(編集上の資料につき不備が多々ありますが、ご寛恕ねがいます)

4月25日

「プロジェクト猪」事務局

前田和男(東大)

田中邦之(法政)

若山 宏(明治)

連絡先：東京都千代田区飯田橋4-4-5-905(株)同文社(前田)

Tel03-3265-2567 FAX03-234-9026